



音楽で地方の豊かさをプロデュース 演奏者と聴衆を繋げたい

写真: 平山素也
文: 奈良のりえ



読書好きの文学少年で歴史学者になることが夢だった。朔太郎や啄木を好んで読み、中学では野球部、高校と大学では剣道部で体力をつけた。大学時代に父のピアノ工場が厳しい環境になり、家業立て直しのため読書やスポーツなど趣味は全て「封印」。学業と経営者という二足の草鞋で父の会社を軌道に乗せる。

ターニングポイントは地元静岡で行われた海外派遣研修プログラムに参加したとき。ドイツ、スイスなど5か国を周り、「ヨーロッパは文化が成熟していて豊かさが違う」と感じた。

家業の事業承継が進む中、研修で受けた衝撃が頭から離れない。「欧州では地域に独自の特徴があり、誇りを持って暮らす。そこに音楽は欠かせない存在だった」。当時29歳、前橋で創業することを決意。「チャレンジするなら大学時代を過ごした群馬だ。仲間もいる」。

47年を経た今も地方の豊かさを追求する姿勢は一貫して変わらない。企画した前橋テルサのロビーコンサートは18年、前橋まちなか音楽祭は7年継続している。

コロナ禍でも歩みを止めない。JR前橋駅にピアノを設置し、誰もが演奏できる環境を整えた。白井屋ホテルでは世界最高峰のスタインウェイのハイレゾ自動演奏ピアノスピリオー^ル SPiRiOrを活用した演奏にも協力している。

敬愛するのはベートーヴェンとシューベルト。胸に秘めている言葉は『感謝』だ。多くの人に助けられてここまで来たのだという。「演奏者と聴衆を繋げていきたい」と語る端々に、日常のひとコマに音楽を感じてほしいと願うプロデューサーとしての強い思いを感じた。

Profile
日本ピアノホールディング株式会社
代表取締役社長

なかもり たかとし
中森 隆利

静岡県磐田市出身。10歳より父親の経営するピアノ工場で育つ。1964年高崎経済大学入学、経営学を学ぶ。学生時代より工場の経営に携わり、卒業後、ピアノ技術も習得し実質的に工場全体の管理運営を行う。72年、静岡県の後継者海外派遣でヨーロッパ5か国を歴訪してカルチャーショックを受け、74年、世界と地方を結ぶ「音楽と楽器の専門会社」を目指して前橋市で創業。音楽文化発信と世界のピアノを扱う専門会社代表として現在に至る。

